

## (1) スイートコーン

### ア 品目の概要

#### (ア) 生理・生態

##### ・ 特徴

生育が旺盛で、環境への適応性が高く、省力的で、比較的栽培しやすい品目である。一方、収穫適期は短く、収穫したものは鮮度が落ちやすいので、労力の競合などにより収穫・出荷適期を逸しないよう配慮する必要がある。

##### ・ 気温と生育

スイートコーンは本来高温性作物であり、発芽後の生育適温は 22～30℃である。

#### (イ) 品種

J A 信州諏訪で扱っている主な品種は、イエロー系では「わくわくコーン® 8 2」（カネコ種苗株）、「ゴールドラッシュ® 8 8」（サカタのタネ株）、バイカラーでは「グラビス®」（雪印種苗株）である。品種選定の際は出荷先と相談の上決定する。飼料用トウモロコシも含め形質が異なる品種を近接栽培すると、交雑によるキセニアが発生し商品価値を低下させるので注意する。

#### (ウ) 栽培のポイント

##### ① ほ場の準備（“長野県野菜栽培指標（令和 3 年 3 月改訂）”より）

適する土壌は、表土が深く腐植に富み、通気性がよく排水が良好で肥沃な土壌である。水田転作を行う場合は、明渠・暗渠を設置する。最適 pH は 5.5～6.5 程度であり、栽培の前年までに矯正を行う。異なる品種を導入する場合は、交雑を防ぐため、直線距離で 250～300m 以上離れた場所で栽培する。

##### ② 施肥

表 10a あたりの施肥基準（“J A 信州諏訪農作物栽培のしおり（令和 8 年度）”より）

	肥料名	施肥量	成分	成分量 kg		
		kg	%	N	P	K
基肥	BB473	160	14-17-13	22.4	27.2	20.8
追肥	BBわかみどり	40	20-4-8	8	1.6	3.2
計				30.4	28.8	24

※追肥は草丈 30～40cm 時と雄穂出穂期の時期に行う。

※水田転作、連作ほ場は 30%増とする。

### ③ 栽植密度 (“JA信州諏訪農作物栽培のしおり(令和8年度)”より)

- ・ 畝幅×株間 45cm × 30cm × 2列 約6,000本/10a
- ・ 畝幅×株間 70cm × 30cm × 1列 約4,700本/10a

### ④ 栽培方法

一般的にスイートコーンは移植を嫌うが、輪作ではブロッコリーの育苗トレイや定植機が流用できるため、セル育苗による移植栽培が多く取り組まれている。

#### ・ 育苗(移植栽培)

低温期はハウスで育苗する。セルの大きさにより育苗期間は異なるが、128穴のセルトレイで3週間程度を要する。大苗定植は定植後の活着や生育が劣り、収量や品質が低下する。容量の少ないセルトレイでは長期間(3週間以上)の育苗を避ける。霜の被害時期を避けて定植する。

#### ・ マルチの有無

##### <無マルチ栽培>

マルチ栽培に比べ初期生育やそろいはやや悪くなるが、ブロッコリー等で用いる定植機が使い、マルチを張らないため省力的であり、輪作品目として取組みやすい。雑草対策として除草剤の散布や土寄せが必要となる。

##### <マルチ栽培>

マルチの効果は、地温の上昇や抑制、土壌水分保持による発芽や生育の促進、雑草抑制と多岐にわたり、スイートコーンにおける効果は極めて高い。マルチは土壌水分が適湿な条件で行う。土壌を移動させないため、原村ではマルチ剥ぎを省略できる生分解性マルチの利用を基本とする。

#### 【マルチの種類】

(“JA信州諏訪農作物栽培のしおり(令和8年度)”より)

- |            |        |             |       |
|------------|--------|-------------|-------|
| ・ 有孔強化黒マルチ | 巾 95cm | 45cm × 30cm | 2列チドリ |
| ・ 生分解性マルチ  | 巾 95cm | 45cm × 30cm | 2列チドリ |

### ⑤ 収穫

近年主流の品種は、収穫適期を逸すると、しわが発生するなど品質が著しく低下する。収穫適期は、絹糸が褐色になり、雌穂先端の子実が肥大した直後である。最も確実なのは、数本、試し収穫するのがよい。収穫後は時間の経過とともに糖含量が急速に減少し食味が低下するので、収穫後はできるだけ早く予冷し出荷する。

## ⑥ 病虫害防除

一般的には虫害が問題となる。チョウ目害虫（アワノメイガ、オオタバコガ）やアブラムシの発生により出荷できなくなることがあるため、適期防除に努める。

※詳細は、参考資料 20 ページ「スイートコーンの病虫害防除」を参照する。

## イ 輪作導入の事例

### 「ブロッコリー栽培機器を利用したスイートコーンの導入」

#### (ア) 背景と目的

Hs再発防止のため輪作に取り組む必要があるが、ブロッコリー専作農家にとって、初めて取り組む栽培への不安や資材、機械がないことでの取り組みへの難しさがあった。そこで、JA信州諏訪と協力し、ブロッコリーで用いる定植機や除草剤の活用による無マルチ栽培について検討した。

#### (イ) 取組内容

##### ① 耕種概要

ほ場面積：33 a 栽植密度：70 cm×30 cm×2列 約6,000本/10a

品 種：わくわくコーン®82、ゴールドラッシュ®88

育苗・培土：128穴セルトレイ、プロフィットコールド

※ ブロッコリーと同じものを使用

は 種：令和6年4月24日～5月14日

定 植：5月17日～5月30日（1週間ずつずらして は種⇒定植）

基 肥：BB473（160 kg/10 a）

追 肥：BBわかみどり、トミー液肥

収 穫：令和6年7月29日～8月18日



スイートコーン育苗の様子



ブロッコリー定植機（(株)クボタ）

## ② 栽培スケジュール

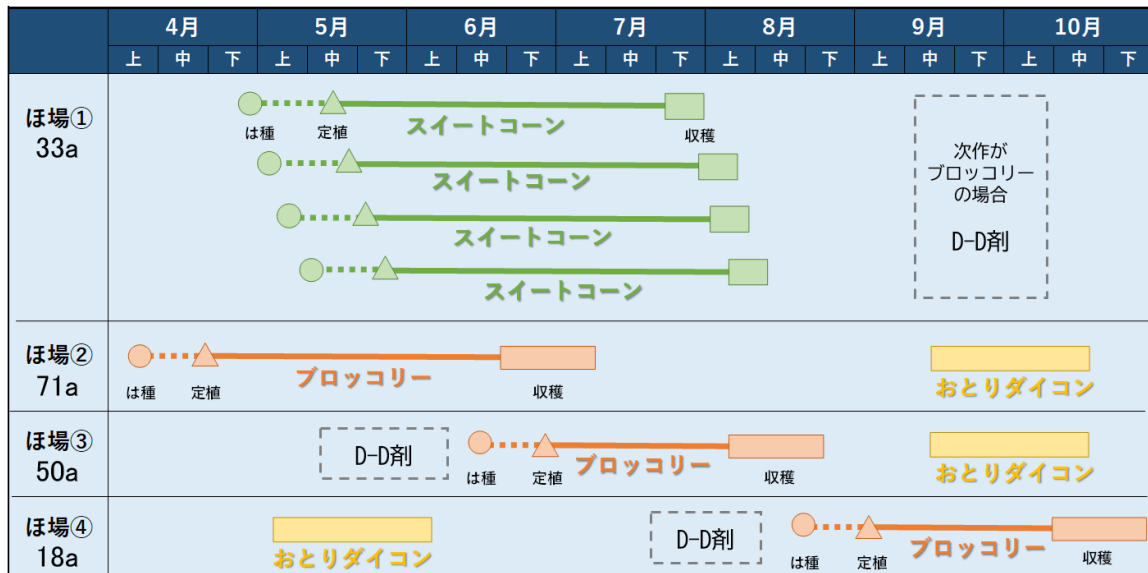


図 ブロッコリーと組み合わせたスイートコーン作型のスケジュール例

【参考】労働時間（10aあたり）（“長野県農業経営指標（令和4年改訂）”より）

・スイートコーン：120時間　・ブロッコリー：109.4時間

### （ウ）経営比較

《令和6年度スイートコーン実績》

面積：約 33a

出荷期間：7/29～8/18うち10日間

出荷量：約 1000箱

売上：約 1,550,000円

➡ 10aあたり粗収益  
470,000円

参考 ブロッコリー（長野県農業経営指標より）

秀品250ケース出荷の場合

➡ 10aあたり粗収益  
510,000円

※通常の経費：332,000円

Hs防除上乗せ経費：360,000円

Hs防除…D-D剤代+捕獲作物種代

夏場のブロッコリー生産において、秀品の確保が難しくなっていること、Hs発生履歴のあるほ場においては防除費用が上乗せされることから、スイートコーンは経営的に導入するメリットがあると考えられる。

### （エ）スイートコーン栽培に取り組んだA氏の感想

- ・育苗はブロッコリーに比べて発芽の揃いが悪く不安になったが、問題はなかった。
- ・育苗資材、定植機、管理機は、ブロッコリーと同じものが使用できた。
- ・無マルチ栽培であったのであらかじめ除草剤を用意したが、土寄せ作業のみで除草剤は使用しなかった。
- ・作業面について大きな負担はなかった。ただし、収穫時は、収穫適期が短く選別作業もあったため、家族で協力して対応した。
- ・異常気象で夏場のブロッコリーが作りにくくなっている中、新たに用意する機械も必要なく栽培ができたため、スイートコーンに取り組んでみてよかった。